

教科	理科	科目	生物基礎	単位数	2
学年	2年	類型	流通経済科・情報ビジネス科・地域ビジネス科・商業科		
教科書(出版社)	改訂版 新編 生物基礎 (数研出版)				
副教材(出版社)	改訂版 スタディアップノート 生物基礎 (数研出版)				
授業の概要	教室での学習活動や、実験・実習作業による探究活動を通して、事物・現象について科学的な考察力や知識を習得する。				
授業の目標	自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について、身近な事物・現象に関する観察・実験などを通して理解を深め、科学的な見方や考え方を養いながら、科学に対する興味・関心を高める。				
年間 学習 計画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1 学期	序章—生命の探究— 第1編 生物と遺伝子 第1章 生物の特徴 第2章 遺伝子とそのはたらき	<ul style="list-style-type: none"> 生物基礎で学習する内容の概要を把握し、探究活動とは何かについて理解する。 生物の共通性と多様性について学習し、細胞の構造や呼吸、光合成について理解を深める。 遺伝子の本体であるDNAの構造や遺伝情報について理解を深める。 生命現象におけるタンパク質合成のしくみについて学習する。 		
	2 学期	第2編 生物の体内環境の維持 第3章 生物の体内環境とその維持 第3編 生物の多様性と生態系 第4章 植生の多様性と分布	<ul style="list-style-type: none"> 多細胞動物の体液は、細胞にとっての環境(体内環境)であることを理解する。また体内環境がほぼ一定に保たれているしくみについて理解を深めながら、循環系・腎臓と肝臓の構造とはたらきや自律神経系と内分泌系、免疫のしくみについて学習する。 植生について、その構造や遷移について学習する。 		
	3 学期	第5章 生態系とその保全	<ul style="list-style-type: none"> 地球上のバイオームの分布や、バイオームの種類と気温・年降水量の関係について理解する。 生態系における物質循環とエネルギーの流れについて学習する。また、地球レベルの環境問題を取り上げながら、自然環境の保全が大切であることを理解する。 		
観点別 評価	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解	
	身近な自然事象について興味と関心をもちながら、積極的な態度で授業に取り組むことができる。	簡単な仮説をあげ、その処理実験と対照実験を考えることができる。 生物の多様性と共通性を理解し、適切に表現することができる。	実験計画に沿った観察・実験の実行と結果の整理を行うことができる。 実験器具の操作やデータ処理を適切に行うことができる。	学習内容について理解を深め、適確に考察することができる。 観察実験で得られたデータをもとにして関連する知識を整理できる。	
備考	4つの観点に基づき、各学期ごとに100点法で評価する。また、学年末の評価は各学期の評価を平均し、総合的に評価する。				